

2月定例会号

市議会だよりは2月、5月、8月、11月の第2土曜日(定例会号)、1月1日(新年号)に発行します。
今回は6月定例会が開催予定です。



いちかわ

市議会だより

2月定例会

一般会計予算1768億円などを可決

市長の施政方針などに各会派から代表質問



令和7年3月竣工予定の国府台公園野球場(完成イメージ図)

市議会は、令和6年2月定例会を9月14日から3月12日まで開催しました。

2月定例会では、初日に田中市長が施政方針演説を、次いで田中康恵教育長が教育行政運営方針演説を行いました。続いて、令和6年度当初予算案を含む市長提出議案等32件を一括議題とし、これに施政方針、教育行政運営方針を含めて、8会派が代表質問を行いました。また、議員からは、「地方創生に貢献するサーキュラーエコノミー(循環経済)の一層の推進を求める意見書の提出について」、「若者のオーバードーズ(薬物の過剰摂取)防止対策の強化を求める意見書の提出について」などの発議案5件が提出されました。その他、23人の議員による一般質問を行いました。

本会議での採決の結果、市議会は、市長提出議案等の32件をいずれも原案通り可決・同意した他、諮問3件を異議ない旨答申しました。

また、市長からは、「教育長の任命について」の追加議案1件も提出され、市議会はこれに同意しました。

議員提出議案については、提出された5件のうち、意見書案2件を可決、3件を否決しました。

また、専決処分承認を求める報告1件を承認した他、2件の報告がなされました。

(代表質問は25面、一般質問は68面、審議結果一覧は95面に掲載)

◆施政方針(要旨)

昭和9年11月3日に市川市が誕生し、本年で市制施行90周年を迎える。過去への感謝を深め未来に一步を踏み出すターニングポイントとなるよう、市民と一緒に盛り上げるとともに、100周年に向けた更なる発展を目指し、本市の持つポテンシャルを最大限発揮していく。

そのためには、今、本市が抱えている大きな課題の一つである「格差」に真正面から向き合い、誰一人取り残すことのない持続可能な社会を目指す。これからも市議会とともに市民が真に望んでいる市政を実現するため、3つのまちの姿に沿って令和6年度の重点施策を示し、誰もがいつまでも住み続けたいと思えるまちを目指していく。

【重点施策】

- 誰一人取り残さないまち チャレンジ75「学ぶ・使う・得をする」の実施 第1庁舎2階にこども家庭センターを設置、コンビニエンスストアにAED設置、障がい者施設に通所する際の交通費助成率の引上げなど
- 持続可能で安心・快適なまち 地域新電力会社の設立、クリーンセンターの建て替え、里山・里海を次の時代に残す、空家の活用促進、時代の変化に即した都市計画など
- 魅力あふれる元気なまち 行徳の神興文化を市の無形民俗文化財に指定、美術館構想の具体化、スポーツの力による元気なまちづくり、(仮称)塩浜マリンパークの検討、市制施行90周年記念事業の実施など

◆教育行政運営方針(要旨)

令和5年度は、この5年間進めてきた第3期市川市教育振興基本計画の最終年度であり、計画期間中は地域学校協働本部の全校配置や、小中一貫教育を進め、授業でデジタル技術を生かした多様な教育実践に取り組んできた。

(教育行政運営の基本方針)

令和6年度は、新たに策定した第4期市川市教育振興基本計画のもと、施策や取り組みを進めていく。本計画では「市川の教育の目指す姿」として、「互いに認め合い、自分の思いを実現できる子ども」、「誰もが幸せを感じ、ともに学び支え合う、家庭・学校・地域」の2つを掲げ、これに向かって教育の振興を図っていく。

(人をつなぐ、未来へつなぐ、市川の教育)の実現に向けて「重要な施策」

- 子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進 全ての子どもたちの確かな学力の育成への注力、心身の健康の増進や体力の向上、食の環境の充実及び食育の推進など
- 学びの質の向上と学びの保障の実現 情報活用能力の向上、学校に関わる誰もが居心地の良い学校づくりの推進、不登校児童生徒支援のための校内教育支援センターの開設、多様な教育ニーズへの対応など
- ともに支え合う学びの環境整備 学校運営協議会や地域学校協働本部の充実と活用の推進、生涯学習施設等の環境整備、市内文化財の保護と活用、史跡の公有化及び保存活用など

◆当初予算

当初予算は、一般会計が対前年度比6.0%増の1768億円、特別会計は3会計を合わせて797億9500万円で同1.0%増、公営企業会計の下水道事業会計は229億1900万円で同1.7%増、総額では2795億1400万円、同4.2%の増となっています。